

H-3

ダグール語の 2 種類の動詞否定形式

山田洋平

(東京外国語大学博士後期課程 / 日本学術振興会特別研究員 DC2)

1. はじめに

ダグール語¹の動詞が取り得る否定表現 (動詞否定形式)² には 2 種類ある。否定を表す *ul* を動詞の前に置く 前置否定 と、動詞の形動詞形 (PTCP) の後に存在の否定を表す形容詞的な語 *uwei* を置くという 後置否定 である。前者は非過去時制の場合 (1a) に、後者は過去時制の場合 (1b) に用いられるが、非過去時制においても稀に後置否定がとられる (1c) ことは先行研究でも十分に述べられていない。そこで (1a) と (1c) の使い分けが問題になる (例文中の問題となる否定形式に囲みを付す。以下同様)。

(1a) <i>ul</i> <i>oo-n</i>	(1b) <i>oo</i> - <i>sen</i> <i>uwei</i>	(1c) <i>oo</i> - <i>g</i> <i>uwei</i>
NEG to.drink-NPST2	to.drink-PTCP.PRF NEG.EXIS	to.drink-PTCP.FUT NEG.EXIS
飲まない	飲まなかった	飲まない

本発表では、ダグール語において (1c) のような 後置否定 が用いられる条件がある種の「期待」に反する場合であることを明らかにする。さらにダグール語に 2 種類の動詞否定形式があることは、モンゴル語族における 2 種類の動詞否定形式の型の中間的あるいは過渡的な状態にあるということを論じる。

次節では議論の基礎となるダグール語とモンゴル語族の動詞否定形式の諸相をまとめる。このうえで 3 節ではダグール語の動詞否定形式の用例から、2 種類の否定形式の使い分けの条件を考察する。次いで 4 節で 2 種類の動詞否定形式の型の分布をモンゴル語族全体の中に位置づけ、5 節でまとめる。

2. 動詞否定形式の諸相

2.1. モンゴル語族の動詞否定形式

モンゴル語族の諸言語は、取りうる動詞否定形式によって 2 分できる。**ülü* に由来する語 (ダグール語の *ul*) で前置否定する南方の 前置型 の言語と、**ügei* に由来する語 (ダグール語の *uwei*) で後置否定する中央・北方の 後置型 の言語である。その大まかな分布を地図上に示すと、次の図 1 のようになる。



◎ダグール語

★前置型 (モゴール語、シラユグル語、モンゴル語、保安語、東郷語(、中世モンゴル語))

★後置型 (オイラト語、モンゴル語、ブリヤート語、オルドス語、ハムニガンモンゴル語)

図 1. モンゴル語族の動詞否定形式の分布 (Rybatzki 2003: 384 を参考に作成)³

¹ モンゴル語族の言語の一。中国のダグール人の民族人口は 13 万人ほどだがダグール語話者は減少している。ダグル、ダウル、ダゴルなどとも (英語では Dagur, Daur, Daor など)。中国東北部に分布し、チチハル、ブトハ、ハイラル方言などに大別される。調査はこの 3 地点からそれぞれ 1 人ずつ調査協力者を得て聞き取りを行ったが、今回の調査では大きな方言差は認められず、煩雑を避け特にこれを示していない。他に新疆ウイグル自治区に分布する新疆方言もある。

² なお、ここでは命令や意志などの動詞の希求形については議論しない。ダグール語を含めモンゴル語族の言語では少なくとも命令の否定 (禁止) において、禁止を表す語 (否定語 **ülü* とは異なる) を前置する方法が取られる。

³ 大よそ各言語の代表的な中心地を示したものだが、もとより概略であり必ずしも 1 言語 1 地点を指してはいない。

Rybatzki (2003: 384) の記述によれば、純粋な前置型の言語はモゴール語、保安語、東郷語のみ、純粋な後置型の言語はハムニガンモンゴル語とブリヤート語のみであり、その他の言語は前置否定も後置否定も有するという。しかしこれは的確ではない。例えばモンゴル語でも *ül* (<**ülü*) があるが、書き言葉や化石的表現に限られる⁴。共時的に、高い生産性を持つ否定形式に限れば、モンゴル語は後置型である。

ダグール語を前置型と捉えるならば (cf. 2.3.) 前置型は周圈的分布を成していると言え⁵、また前置型が中世モンゴル語にも見られることから、前置型のほうが古形であると言えよう。

2.2. 前置否定と後置否定の違い

2 種類の動詞否定形式は、どんな動詞形式にも付されうる前置否定と形動詞形に限定される後置否定という点で本質的に異なる。次の表 1 では前置否定と後置否定につき肯定とどう対応するか示した。ここから後置否定における肯定と否定の非対称性、ひいては体系の複雑さが見て取れる。

表 1. 前置否定と後置否定の違い⁶

	前置否定 (ex. ダグール語)		後置否定 (ex. (ハルハ) モンゴル語)	
定動詞形	<i>id-bei</i> 「食べる」 to.eat-NPST <i>ül id-n</i> 「食べない」 NEG to.eat-NPST2	どの形に	<i>id-ne</i> 「食べる」 to.eat-NPST <i>ide-x-güj</i> ⁷ 「食べない」 to.eat-PTCP.FUT-NEG.EXIS	定動詞形には 直接の否定形が無い (対応する形動詞形にしなければならない)
形動詞形	<i>id-g jak</i> 「食べるもの」 to.eat-PTCP.FUT thing <i>ül id-g jak</i> 「食べないもの」 NEG to.eat-PTCP.FUT thing いもの」	も前置で	<i>ide-x yüm</i> 「食べるもの」 to.eat-PTCP.FUT thing もの」 <i>ide-x-güj yüm</i> 「食べないもの」 to.eat-PTCP.FUT-NEG.EXIS thing いもの」	否定にしても形動詞的な性質を減じない (* <i>ugei</i> の形容詞的な性質によるものか)
副動詞形	<i>id-ees</i> 「食べれば」 to.eat-COND <i>ül id-ees</i> 「食べなければ」 NEG to.eat-COND	きる	<i>id-wel</i> 「食べれば」 to.eat-COND <i>ide-x-güj=bol</i> 「食べないなら」 to.eat-PTCP-NEG.EXIS =COND	直接の否定形が無く 、それぞれ格や小辞を用いて対応する否定的意味を表現する

2.3. ダグール語の動詞否定形式

ダグール語の動詞否定形式は、2 種類あるとはいえ**基本的には前置否定**であると言える。副動詞形など多くの形式において前置否定が取られるためである (cf. 表 1)。しかし**過去時制の場合には普通、後置否定が用いられる** (2)。過去時制を表すのには専ら *-sen* による完了形動詞形が用いられる。

⁴ 約 873 万語からなる現代モンゴル語のコーパスを検索すると、*ül* は 5056 例得られる。決して少ない数字ではないが、書き言葉コーパスゆえの結果であろう。ちなみに後置否定 (未来形動詞形-*x-güj* のみ試算) は 39000 例ほど得られる。

⁵ 図 1 中の左端から順に 4 つの★はオイラト語の分布を示したもので、これらの間の言語差は小さいものと考えられる (= より中央的であり、「古くから★より外側に分布するものである」とは見ない)。

⁶ 定動詞形、形動詞形、副動詞形はそれぞれ代表的なもの (非過去定動詞形、未来形動詞形、条件副動詞形) を示したものであり、他にも言語ごとに各々複数の形式が含まれる。後置否定では定動詞形の否定につき「対応する形動詞形にしなければならない」が、定動詞形と形動詞形に一対一に対応する形式があるわけではない。例えばモンゴル語では過去定動詞形 *-IAA* (直接経験), *-jee* (間接経験), *-w* (中立) に対し、否定では形動詞形 *-sAn* (完了), *-AA* (未完了) が対応する。

⁷ *-güj* が **ugei* に対応する要素。モンゴル語に限らず、後置否定における形動詞形の動詞と否定の **ugei* との間の緊密度は高いことが多く、ここではそれを反映したモンゴル国のモンゴル語正書法に倣い接辞として記した。

- (2) *bii hoir ailčien-ii orie budaa id-elgee-g-uer soli-sen aa-tgaič,*
 1SG two guest-GA night meal to.eat-CAUS-PTCP-FUT-INS to.invite-PTCP.PRF COP-CONC
ted ir-sen uwei. 私は晩御飯をご馳走しようとお客さんを二人招待したのに、
 those to.come-PTCP.PRF NEG.EXIS 彼らは来なかった。(塩谷 1991: 76)

過去時制でも前置否定される例は若干見られる。①終助詞 *dee* を伴った反語表現 ((3), 「厳密には否定ではなく、婉曲な肯定である」恩和巴图编 1988: 326)、②定動詞的でない (文を終止しない) 用法の場合 (4)、そして③用例は乏しいが過去時制を表すもう一つの形式⁸ (5) では専ら前置否定が用いられる。

- (3) *ter dian'il-ii badi ul uŋ-sen=naa dee* あの映画は僕ら見たじゃないか
 that movie-GA 1PL.INCL NEG to.see-PTCP.PRF=1PL.INCL SFP (恩和巴图编 1988: 327)
 (4) *want-ŋ ul šad-sen=č, bii kert-ŋ+aa-wei=bie.* 寝られなかったとしても、横
 to.sleep-SIM NEG can-PTCP.PRF=also 1SG to.lie-SIM+COP-NPST=1SG になっている (塩谷 1991: 80)
 (5a) *šamd el-laa dee, ...* (5b) *es sons-lii=daa.*
 2SG.DAT to.say-PST SFP NEG to.listen-PST=1PL.INCL
 お前に行ったじゃないか (恩和巴图编 1988: 306) 私たちは聞かなかった (恩和巴图编 1988: 438)

いずれにせよ、過去時制で前置否定になる用例は少ない。他方、非過去時制では基本的に前置否定になる (6)。非過去定動詞形は肯定と否定で取る形式が異なるが、これについては問題にしない (下線部)⁹。

- (6a) *id-bei* (6b) *ul id-n*
 to.eat-NPST 食べる NEG to.eat-NPST2 食べない [表 1 より再掲]

非過去時制に関し、後置否定になる事例¹⁰について先行研究では十分な記載がない。恩和巴图编 (1988: 355) は形動詞形¹¹に前置否定と後置否定があるということに言及し、前者は「現在・未来」(≡非過去)、後者は「現在」の意味になるとする。次節ではこの非過去時制の後置否定について検討する。

- (7) *šad-g uwei=sul kawoo*
 can-PTCP.FUT NEG.EXIS=3PL SFP 彼らはできないだろう (恩和巴图编 1988: 355)

⁸ この「もう一つの形式」-*laa* / -*lii* は過去定動詞形であり、本来はこれが専ら過去時制を担っていたものと見られる。形動詞形のような連体修飾の機能を有さないので後置否定できないのは当然である。なお、(5b) では否定に *ul* ではなく *es* が用いられているが、モンゴル語族に見られる **ülü* (>*ul*) と **ese* (>*es*) はそれぞれ現在と過去という時制に応じて使い分けられており (Rybatzki 2003: 384)、ダグール語の *es* も過去時制において使われやすい。しかし *es* について「様々な感情を含む文で用いられることが多い」(恩和巴图编 1988: 438) という記述もある。いずれにせよ使用頻度は低い。

⁹ この点ではダグール語も肯定と否定が対称的であるとは言えない。NPST2 とした形式 -*n* について NPST.NEG (=否定の意味を含む) であるとする見方もあるが、ここではそのような立場を取らない。その根拠は -*n* が稀に肯定でも用いられるからであるが、この点についてはまだ議論の余地がある。-*n* の性質等の問題については稿を改めて論じたい。前置否定における非対称性は他の動詞形式には無く、他のモンゴル語族にも (非過去定動詞形においても) おそらく無い。

¹⁰ 「まだ～していない」の意を表す *udien* による後置否定もよく用いられる。未来形動詞形の後ろに置かれるが、*uwei* と異なり *udien* の独立性は低く、主文の述語位置にのみ使用される。これについては紙幅の都合上言及を割愛する。

¹¹ 主節の述語となる用例については述べられていないが、例 (7) に見るように事実上は主節の述語としての用法が想定される。完了形動詞形 -*sen* と異なり、未来形動詞形 -*g* は単独で (*uwei* を伴わずに) 主節の述語になることはない。

3. 後置否定の使われ方

3.1. アスペクトと否定

ダグール語にはモンゴル語にも見られるような、日本語の「テイル」に似た構造で進行アスペクトを表す迂言的な表現がある (例文中下線部)。この表現の否定も、基本的には前置否定が用いられる (8)。しかし、次の例 (9) のような進行アスペクトの出現を期待する応答の文脈では、後置否定が現れる。

- (8) *ter ugin kejee eil-g-ue-mel* ul *mede-j+aa-wei*
 that girl when to.marry-PTCP.FUT-REFL-REFL NEG to.know-SIM+COP-NPST
 あの娘はいつお嫁に行くのか分かっていない (塩谷 1991: 59)

- (9) - *šii edee badaa kii-j+aa-bei=šie?* 「お前は今、ご飯を作っているのか」
 2SG now meal to.make-SIM+COP-NPST=2SG.Q
 - *badaa kii-g uwei badaa id-j+aa-b=bee* 「ご飯は作っていない、
 meal to.make-PTCP.FUT NEG.EXIS meal to.eat-SIM+COP-NPST=1SG 食べているんだ」

(8) と (9) の間には、補助動詞構造の主動詞を否定する ([知らない]でいる) か補助動詞を否定する ([作っている状態]でない) かというスコープの違いがあるようである。

(9) では補助動詞として機能している *aa* に直接対応する否定表現が使われない (**kii-j ul aa{to.do-SIM NEG COP}*, cf. Yamada 2016) ことと関連し、補助動詞が否定語 *uwei* と置き換わったようにも見える。しかし主動詞は形動詞形を取っており、これは (元の進行アスペクト表現に見られる) 同時副動詞形 *-j* に置き換えることはできない。ところで恩和巴图编 (1988: 355) がこれを「現在」の意味になると説明したのは、この進行アスペクトの否定というニュアンスが念頭にあったものであろうと思われる。

3.2. 「期待」と否定

恩和巴图编 (1988: 355) が後置否定の意味を「現在」と呼び「現在・未来」と区別したことは、この形式が未来の事態を表さないことを暗示しているものと思われる。しかし次の例 (10) のように未来の事態でも後置否定が使用される反例があり、恩和巴图编 (1988) の指摘は正確でないことがわかる。またここでは「[来るといふ動作が進行中]ではない」進行アスペクトの否定であるとも捉えがたい。

- (10) *bii tend ul iči-m, buni tani-g kuu ire-g uwei*
 1SG there NEG to.go-NPST2.1SG tomorrow to.know-PTCP.FUT person to.come-PTCP.FUT NEG.EXIS
 私はそこに行かない。明日は知っている人が来ないんだ

この例 (10) を見ると、先行文脈 (「行かない」) に対する説明 (「行かない」理由) を加える否定文である場合に後置否定が現れているように見える。これは次の例 (11) に見るように必ずしも理由節 (「～だから」) とは限らず、先行文脈との関係付けを保っている場合ならば後置否定が現れると見える。

- (11) - *in yuguu ul ire-n? - in eudii-bei, tenne ire-g uwei*
 3SG why NEG to.come-NPST2 3SG to.be.sick-NPST so to.come-PTCP.FUT NEG.EXIS
 「彼はなぜ来ない?」「病気だから来ないんだ」

ここであげた例 (10)(11) はいずれも先行文脈によって話し手または聞き手の「期待」((10)「知っている人が来る」(11)「彼が来る」) がそれぞれ否定されているとも見える。

3.3. 考察

工藤 (2000) は否定の表現の諸特徴をまとめる中で、語用論的な肯定・否定の非対称性や、文否定に命題的側面とモダリティ的側面があることなどに触れている。情報性の低い否定文がコンテキスト上適切であるならば、協調の原理から見ても先行文脈との関連性が求められる可能性が高い (工藤 2000: 97 要約)。従って次の例に見るように、先行文脈との関連性そのものは後置否定の条件とはならない (12)。

- (12) *tenger nyamer haloon, šii yuguu hus-ee* u *haačil-n=šie?* こんなに暑いのに、どうし
sky how hot 2SG why hair-REFL NEG to.cut-NPST2=2SG.Q て髪を切らないんだ？

工藤 (2000: 95, 96) によれば命題の側面に関わる否定であれば述語が表すく属性の非存在>、モダリティに関わる否定であれば話し手の<否認 (打消)>が問題になるという。上の例 (12) では命題内部で<属性の非存在>という形で否定が行われている。他方で次の例 (13) は聞き手の「期待」が命題となり、これを<否認>し命題そのものが否定のスコープとなっている。

- (13) *daguur huseg sons-ii guur*g *uwe*i*=mee.* ダグール語を聞いても分
Dagur word to.listen-SIM to.understand-PTCP.FUT NEG.EXIS =1SG からないんだ

こうしたある種の肯定的な「期待」が表出される命題を形動詞形によって補文として名詞節化したうえで、これをモーダルな側面から否定し「期待に反する」ことを表す表現がダグール語の後置否定であると考えられる。井島 (2010) は日本語の「ノダ文」の意味や機能について「所有者のある命題」として統一的な説明を試みるものである。ここでは従来言われている「ノダ文」の「説明・関連付け」という性質を、「期待や信念」を含む命題から副次的に生じるものであるとして解釈している。ダグール語においても「期待」の命題が先行文脈との関連性として解釈されうる (cf. (10)) のは、井島 (2010) の「ノダ文」(ここでは<否認>の「のではない」) の扱いから説明できそうである。

ただし、「ノダ文」が頻繁に用いられる日本語に対し「非過去時制では前置否定が優勢、過去時制では後置否定が優勢」なダグール語に見られるズレは、単純に「ノダ文」の適用では説明できない。工藤 (2000: 96) は対象化されえないモーダルな側面の否定は日本語において典型定テンス対立を見せないと指摘するが、ダグール語ではむしろモーダルな側面を否定する後置否定にのみ典型的テンス対立がある (表2)。

表2. 日本語のノダを含む否定 (工藤 2000: 95, 96 を参照) とダグール語の動詞否定形式

	断定	否認		断定	否認
存在	スルのだ シタのだ	スルのではない *スルのではなかった	存在	kii-bei kii-sen	kii-g uwei kii-sen uwei
非存在	シナイのだ シナカッタのだ	シナイのではない *シナイのではなかった	非存在	u kii-n kii -sen uwei	??

本来は専ら連体修飾節や準体節の述語を担うものであった *-sen* は、通時的変化を経て主節の述語を担うようになったものと考えられる。この過程で *-sen* はモーダルの無標の過去時制を表出するようになった。結果的に、否定において本来の前置否定を駆逐し後置否定が用いられるようになった。

4. モンゴル語族における位置づけ

2.1. で触れたようにモンゴル語族の言語は、前置型の言語と後置型の言語に分類することができる。しかし Rybatzki (2003: 384) の記述にあるように、ダグール語の他にも前置否定と後置否定を併用する言語もあるらしい¹²。中世モンゴル語にも、形動詞形+*ügei という構造を取る例を見つけることができる。

(14) 阿撒_黑=^中忽兀該 [asa'ulca=qu ügei] 不曾相問
問=的 無 to.ask=PTCP.FUT.M NEG.EXIS 「問うことなく」 元朝秘史 1:18:03-04¹³

後置型の言語にも「前置型だった痕跡」があり、おそらく前置型の言語でも幾らか「後置型に移行する兆し」がある。ダグール語は前置否定が優勢ではあるが、後置型に移行する過渡期にあるのであろう。後置型の言語はダグール語におけるような使い分けを経て後置型になったのだと推測される (図 2)。

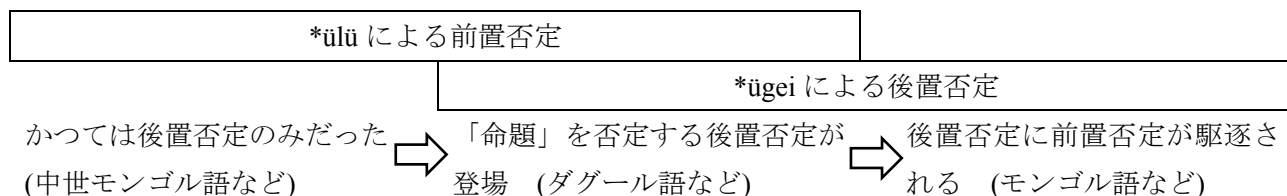


図 2. モンゴル語族における動詞否定形式の移り変わり

5. おわりに

以上、ダグール語において「期待」を含意する命題の否定に後置否定が用いられること、そしてこれがモンゴル語族における前置型から後置型への移行の途上にあることを見てきた。しかし、モンゴル語族がなぜ体系の複雑な後置否定 (cf. 表 1) に移行しつつあるのかについては十分紙面を割けなかった。理由は定動詞否定の状態的性質と形動詞節の名詞的性質にあると思われるが、稿を改めて論じたい。

略号一覧 (Leipzig Glossing Rules に無いもの) -: 接辞境界 / =: 接語境界 / +: 複合語の語境界 / GA: genitive-accusative 属対格 / DAT: dative-locative 与位格 / EXIS: existence 存在 / SFP: sentence final particle 終助詞 / SIM: simultaneous 同時

参考文献: 恩和巴图编 (1988) 『达斡尔语和蒙古语』 蒙古语族语言方言研究丛书 004 呼和浩特: 内蒙古人民出版社 / 井島正博 (2010) 「ノダ文の機能と構造」 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室『日本語学論集』第 6 号. 75-117 / 工藤真由美 (2000) 「否定の表現」 金水敏、工藤真由美、沼田善子『時・否定と取り立て [日本語の文法 2]』 東京: 岩波書店 / 小澤重男 (訳) (1997) 『元朝秘史 (上)』 東京: 岩波書店 / Rybatzki, Volker. 2003. Intra-Mongolic Taxonomy. Juha Janhunen (ed.). *The Mongolic Languages*. 364-390. London and New York: Routledge. / 塩谷茂樹 (1991) 「ダグール語ハイラル方言の口語資料—テキストと注釈—」 『日本モンゴル学会紀要』 No.21(1990) pp47-95 東京: 日本モンゴル学会 / Yamada, Yohei. 2016. A Verb aa in Dagur. Second Conference on Central Asian Languages and Linguistics (ConCALL-2) at Indiana University.

¹² 発表者はこれを他の言語で見出してはいない。「形動詞形+名詞述語否定語「～ではない」という構造の存在についてはいくつかの言語の記述で言及されているが、これはここでいう形動詞形+*ügei とは全く別個のものであると考える。

¹³ 言語資料検索システム <http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/> より。和訳、漢語訳は小澤 (訳) (1997: 24, 259) によった。